



岡山県原水協通信

2011年9月21日 No184
原水爆禁止岡山県協議会
700-0981 岡山市北区西島田町4-25
TEL086-244-4526 (F)805-6172
kenmin@po5.oninet.ne.jp

アピール署名の前進を決意

日本原水協第296回常任理事会ひらく

日本原水協は9月19-20日の両日東京で第296回常任理事会を開きました。

会議には45都道府県から48名、14中央団体・組織から16人 代表理事など80人が出席しました。

会議は平和行進、8月の原水爆禁止世界大会の成功を受けて「核兵器全面禁止のアピール」署名運動を大きく前進させようという意思統一されました。

安井事務局長は「世界大会の議論を通じて草の根の運動が国際政治を動かしているというゆるぎない確信が示された。」とのべ、原水爆禁止運動と国連や非同盟諸国との共同が、核兵器禁止条約を国際政治の課題として押し上げていることを強調しました。

2日間の討論で述べ50人が発言、原発事故以後核の恐ろしさが認識され平和行進の中でも「自治体の変化を痛感した」国際署名運動では2015年は次回NPT再検討会議、一斉地方選挙の年、「地域でゆるぎない多数派をめざす」運動としっかり結合させた取り組みが重要などの意見が出されました。

原発事故の問題では、被爆者訴訟に見られる政府の放射線被害の過小評価政策と真正面から対峙するために専門家の英知を結集し原水協のイニシアチブを発揮しようという意見が出されました。

討論のまとめで安井事務局長は①平和行進、世界大



会を通じ、草の根の運動と国際政治がしっかりとかみ合っていることに確信を持ち署名に取り組もう。②マスコミが無視し得ない状況を作り出す草の根の運動を大きく発展させよう。③日本政府に対し、被爆国の政府にふさわしい役割を国連総会や国際舞台で発揮するよう運動をつよめる。④原発からの撤退、自然エネルギーへの転換をもとめ広範な運動との共同をすすめる。とのべました。

閉会挨拶で高草木代表理事は「ノーモア広島、長崎ノーモア被爆者のスローガンを掲げて運動してきた原水協がいま、ビキニ事件の時のような原発に対する国民の不安にどう応える運動をしていくのか問われています。世界が私たちの運動に注目しています。大いに頑張りましょう」と訴えられました。



原発はいらないと6万人

ノーベル賞作家の大江健三郎さん、瀬戸内寂聴さんら著名な9人がよびかけた「さようなら原発集会」が9月19日、東京・明治公園で開かれました。日本原水協常任理事会は会議開始時間を変更し、全国から出席した常任理事が集会に参加しました。「民主主義の集会、市民のデモで私たちの思いを知らせましょう」と大江健三郎さんは訴えられました。6万人の参加者は「原発はいらない」の思いを一つにしました。県原水協の平井事務局長が参加しました。

